

災害訓練に参加して

外来師長 古谷 玲奈

平成30年1月20日(土)に当院で開催された災害訓練に参加しました。まず初めに災害対応について1時間講義を受け、その後3時間で災害訓練を行いました。参加者数56名であり、傷病者数25名の想定でした。

トリアージとは

災害現場では、できるだけ多くの人を救うため、病気やケガの緊急度や重症度によって治療や搬送の優先順位を決めて対応していくことが必要となります。その為、患者さんを赤・黄色・緑・黒の4つにグループに分け、優先度の高い患者さんから治療にあたります。これをトリアージと言います。

患者さんの流れ

今回、患者さんは院外でトリアージされて搬送されてくるという設定でした。患者さんは、医事で受付をして、受付後医事から現場指揮所へ患者情報の連絡が入り、現場指揮所から各トリアージエリアに患者情報の連絡をします。患者さんは、受付後各トリアージエリアに搬送をされ、必要な治療を受けます。

エリアの設定

治療を行う赤エリア・黄色エリア、各エリアへの連絡、病院本部との連絡調整を行う現場指揮所、情報の整理・現場指揮所との連絡調整・外部対応・病床調整を行う病院本部の4つに分かれて訓練を行いました。

訓練を終えて

今回私は、現場指揮所を担当しました。メンバーは医師2名、看護師5名でした。現場指揮所を指揮する医師、受信専用PHSの対応のする医師、起こっていることをホワイトボードに書いていく看護師2名、患者情報を紙に書く看護師1名、患者情報をホワイトボードに書く看護師1名と私は発信専用PHSを携帯し、他部署への連絡を担当しました。

訓練が始まると、現場指揮所には次々に患者情報が入りました。私は入った患者情報を各トリアージエリアに伝えました。電話が混線して繋がらず、そうしている間に次の患者情報が入り、混乱しました。現場指揮所では、患者情報の他に多くの情報を扱っています。その為、時間が経つにつれて、この患者はどうなったのか、手術には出棟したのだろうか、この連絡は各エリア、病院本部にしたのだろうかと不明な点が出てきました。必要な情報を分かりやすく整理していくこと、メンバー間で情報共有をしていくことがとても大切だと実感しました。また、多くの情報が行き来するため患者間違い防止の為に、お互いにしっかりと声を出し復唱して確認をしていくことも大切だと思いました。

いざというときに冷静に対応できるように訓練を継続していくことが必要だと思いました。今後活かせるとても貴重な経験をすることができました。

